

神辺旭高等学校 第1学年 国語科単元指導計画

1 単元名

「グローバリズムの遠近感」(第一学習社『国語総合』)

2 単元の目標

・筆者の使う「遠近感」という語をキーとして、筆者がグローバル化した世界をどう捉えているかを読み取り、ものの見方を豊かにする。

(2 内容「C 読むこと」(1) ア, オ)

3 単元の計画 (全4時間)

時	主な学習活動
1	「グローバリズムの「遠近感」」というタイトルのみを見て、どのようなことが論じられそうな文章なのかをグループ活動を中心に考える。
2	第1段落を読み、「戦争における「遠近感」が日米で違ったこと、9.11をきっかけに「アメリカが戦争における「遠近感」(戦地の人々の苦しみを自分の身に置き換えて理解する感覚＝交換不可能な感覚)を強烈に感じるようになったこと」を読み取る。
3	第2段落を読み、グローバル経済が「遠近感」を喪失したシステム(土地固有の文化などが重要視されなくなるシステム＝交換可能なシステム)であることを読み取る。
4	第3段落を読み、現代の世界には「遠近感」の喪失した交換可能なグローバル経済のシステムと、「遠近感」の中に生きている交換不可能な人々との対立構造が存在するという主張を読み取り、第1時で予想した論旨との比較をし、自分たちのものの見方を広げる。 ←本時

4 本時の目標

・本文の読み取りをした上で、事前にタイトルから予測したものと比較することで、自己のものの見方を広げる。(2 内容「C 読むこと」(1) オ)

5 学習の流れ (4時間目/全4時間)

学習活動 (○発問, ●予想される生徒の反応)	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 課題意識をもつ 「グローバリズムの「遠近感」の「遠近感」を意識して読むことを聞く。	◇本文における「遠近感」という言葉の使われ方に注意するように伝える。	
2 本時のめあて(課題)提示 <div>本文を読み取り、グローバリズムについての自分の考え・見方を広げる</div>		
3 本文の読み取り 「遠近感」の喪失した経済システムと、「遠近感」の中に生きている交換不可能な人々との対立構造に着目する。	◇板書で、対立構造を示す枠を示し、本文をもとに個人で整理をさせる(10分程度)。 ◇個人で整理したものをペアで交流し、その後、全体でまとめる。	筆者の言う「遠近感」の整理をし、筆者が整理するグローバリズムの中における人々の状況を理解している〔読む力〕 (ワークシート)
4 グループ活動 第1時で予想した、グローバリズムと遠近感の関係について、互いの考えをグループ内で比較した上で、本文との違いを整理する。	◇4人グループで活動をさせる(15分程度)。 ◇第1時で書いたものを回し読みさせ、自分たちが予想したことと筆者の考えとをワークシートに整理し、自分たちが持っていなかった考え方を明らかにさせる。 ◆「遠近感」の捉え方の違いを中心に比較させる。 ◆グローバリズムについての捉え方の違いを比較させる。	
5 グループごとの発表	◇代表者一人に発表させる。 ◇聞く側には、ワークシートの聞き取り欄に、自分たちが持っていなかった考えを聞き書きさせる。	筆者の意見と自己の意見を比較し、違いを明らかにした上で、考えを広げようとしている。〔関心・意欲・態度〕
6 振り返り リフレクションシートに記入する。	◇机を戻し、個人で集中して書くように伝える。	(ワークシート、リフレクションシート)